

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530609

研究課題名(和文)可視化する地域社会の宗教/エスニック文化の比較映像分析～大阪生野とイスタンブール

研究課題名(英文)A Comparative Image Analysis of Visualized Religious and Ethnic Community Culture: Istanbul and Ikuno (Osaka)

研究代表者

山中 速人(YAMANAKA, HAYATO)

関西学院大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80191360

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：イスラムに関連する宗教的シンボルが、街頭景観の中にどのように現れているかについて、イスタンブール市内の3街路を比較した。調査方法は、街路風景を切れ目なく撮影し、映像中の人々の服装をイスラム様式で分類し、数と比率を求めた。結果、イスラムの表象が現れる程度は地域と性別で差がみられた。次に、同市在住の被験者群に対し、同映像を視聴させ聞き取りを行った。彼らが最も強く反応したのは映像中のイスラム式服装であった。この地域の宗教的表象の特徴は、服装、店頭商品や広告のような流動性にあると思われる。この特徴は、都市的状况下にあるムスリム・コミュニティの宗教景観を構成する重要な要素であると思われる。

研究成果の概要(英文)：Three streets in Istanbul were selected. The investigative methodology involved walking along the street while seamlessly recording the landscape in a video. Next, clothing worn by all people in the video was categorized into types of attire representative of Islam. The number and ratio of each type was calculated. In conclusion the degree to which Islamic representations appear in the streets varies according to community as well as the gender of the wearer. Secondary, after having resident informants view a video of the street environment, an interview survey was conducted to uncover what kind of religious representation they perceived within the images. The results suggest that religious representations in this area can be characterized as perceived often in fluid mediums, such as attire, shop goods, and advertisements. The fluidity of these religious representations is a critical element in constructing the religious landscape of a metropolitan Muslim community like Istanbul.

研究分野：社会学

キーワード：宗教的表象 イスラム風俗 街頭景観 映像分析 宗教的アイデンティティ エスニック文化

1. 研究開始当初の背景

グローバルな市場経済の拡大に伴って、それと補完的關係にある多文化主義理念の浸透は、トランス・ナショナルなレベルでの文化変容をもたらしつつある。そのような文化変容は、地域社会レベルにおいては、生活様式、衣装風俗、街頭景観などのミクロな局面に顕著に表出し、急速な展開を示しつつある。

とりわけ大都市地域における宗教/エスニック・コミュニティにおいては、当該社会の支配的多数派とは異なる下位文化集団を形成する住民たちによって、文化的アイデンティティの自覚化と自己表現が活発に繰り広げられるようになってきている。この変容は、シンボルや意匠など表象文化の水準に強い変化が現れることに特徴があり、より限定的に言えば、宗教/エスニックな文化の可視性の拡大現象であると言える。またそれらは、当該の地域住民主体による自己表現であると同時に、社会経済的利益に裏打ちされた巧みな表現戦略でもあり得る。

本研究は、大阪・生野界限(日本)のコリアン集住地域とイスタンブール・ファーティー界限(トルコ)の東部/東南部アナトリア地方出身者集住地域を対象として選び、それらを一定の共通する手続きにしたがって映像で記録し、その映像を比較分析することによって、可視性を強める地域社会の宗教/エスニック文化の変化を通文化的な位相において明らかにしようとするものである。

2. 研究の目的

グローバル化した現代世界において、社会の他文化化は、一部の先進諸国にとどまらず、後発途上諸国をも巻き込みながら進行している。本研究では、トルコにおいて、社会の支配的集団とは異なる下位文化集団、イスタンブール・ファーティー界限の東部/東南部アナトリア地方出身者集住地域住民における文化変容に着目し、多文化主義がどのような様式上の変化を伴いながら、住民のライフ

スタイルや文化的表象を活性化するのかを考察する。

今回とりあげるイスタンブール・ファーティー地域(トルコ)は、イスタンブール旧市街にあって、東部/東南部アナトリア地方出身者が多数居住している。この地域は、経済発展が著しいイスタンブールに安価な労働力を供給してきた。イスタンブールに居住する比較的裕福な都市中間層は、政教分離と世俗主義に傾倒しているが、社会経済的地位が相対的に低いこれら地方出身者の多くは、世俗主義ではなくイスラム教を生活規範とする傾向を有している。現在、急速にイスラム色を強めるトルコの政治状況の下で、これら地方出身者たちは、ムスリムとして自己のアイデンティティに覚醒しつつ、また、政府からの利益誘導を当該地域へ企図する戦略を採用しつつ、自己表現としてムスリム的ライフスタイルや風俗を顕在化させている。これらの状況を背景として、この地域におけるムスリムの生活文化は可視化される方向にある。変化は地域社会の街頭景観、住民の衣装、風俗などに顕著に表出されようとしている。

本研究は、イスタンブールのファーティー地域を、大阪・生野地域で行った撮影方法と同一の手続きにしたがって映像に記録し、それらの映像を比較分析することによって、可視性を強める地域社会の宗教/エスニック文化の変化を通文化的な位相において明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

第1段階として、ファーティー地区の主要な生活街路を選定し、防振ステディカムに装着したハイビジョンカメラを用いて、街頭景観の連続撮影を行った。つぎに、収録されたデジタル映像を動画データに転換し、大容量ハードディスクに保存する。そして、記録された映像を、多様な主体がそれぞれの観点から読み取り作業を行い、最後に、宗教/エス

ニック表象の分類、出現量、新たに出現した宗教/エスニック表象、消滅した宗教/エスニック表象を、すでに撮影されている生野の映像データと比較し分析した。

つぎの段階では、イスタンブール在住の、異なった宗教的態度をもつ5人のインフォーマントに対し、イスタンブール市内ファティー(Fatih)地区チャルシャンバ(Çarşamba) 境界で撮影記録された約10分間の街頭景観映像を視聴してもらい、彼/彼女らが、その映像の中に現れる、どのような宗教的表象について反応するかインタビュー調査を行った。

そして、最終段階として、イスタンブールにおける調査で示された街頭景観に現れた宗教的表象の特徴と大阪・生野での同様の研究ですでに得られている街頭景観において現れたエスニック表象の特徴を比較した。

4. 研究成果

第1段階の映像分析の結果として、Çarşamba 境界では、映像に現れた女性の81.9パーセント、男性の12.3パーセントが、イスラームを象徴する服装を着用していた。他方、他の2つの地区では、イスラームを象徴する服装を着用している人は、女性に少し見られた。(Ihlamurdere Cd 11.2%、Barbaros Blv 5.4%)しかし、男性には一人も見られなかった。このように、Çarşamba 境界は、他地区と比較して、イスラームを印象づける被り物を身につけた女性の数は、圧倒的であった。とくに、身体全体を黒衣で包み込むチャルシャフを着た女性が視認できたのは、この境界だけで、比較対象地区ではまったく視認できなかった。バシュオルトゥス、チャルシャフ、トゥルバンの3種類の女性の被り物のうち、Çarşamba 境界で一番数が多かったのは、トゥルバンであり、バシュオルトゥスはむしろ少数であった。

イスタンブールにおいては、このようにイ

スラーム的表象が街頭に現れる程度は、地域によって差があり、また性別によっても差が認められた。

つづく段階のインタビュー調査の結果は次のようなものだった。まず、インフォーマントが最も頻繁にかつ強く反応した対象は、映像に現れた人々が着用しているイスラーム式の服装であった。たとえば、女性のチャルシャフ(Çarşaf)、トゥルバン(turban)、ジルバブ(cilbab)などの服装、男性のジュッペ(cüppe)、サルック(sarık)、タッケ(takke)、シャルヴァール(şalvar)などの服装にもっとも頻繁に反応した。つぎに、インフォーマントが強く反応したのは、商店の店名や店頭陳列された商品やその広告/掲示に示された、イスラーム文化に関連することばや概念であった。一方、インフォーマントが反応した対象の中で、地域の歴史的構造物に関わる表象は、墓地とイスケンデル・パシャ・モスク(İskender Paşa Camii)のわずか2つであった。

この結果が示すように、この地域における宗教的表象の特徴は、ハードな構築物よりも、むしろ人間の服装や店頭の商品や広告に見られるような流動性にあると思われる。この宗教的表象における流動性は、イスタンブールのようなメトロポリタン状況の下にあるムスリム・コミュニティの宗教的景観を構成する重要な要素であると思われる。

これらイスタンブール調査で得られた街頭景観に現れた文化的表象の表れ方の特徴を大阪生野におけるエスニック表象の表れ方を比較すると、前者の表象が服装など人的要素に現れるのに対し、後者は、町並みや街頭構築物に現れる傾向があることがわかった。

また、同研究過程で収集された史料の一つであるメッダ(Meddah 口承文芸)の記録を分析した。これらの記録は、近世のイスタンブールの都市生活や市民感情をいきいきと

描写する史料として高い価値をもっている。それらの中から、イスタンブールの都市イメージやエスニック文化について描いた話を3つ選び、分析を行い、イスタンブールの都市イメージとイスタンブールの宗教／エスニック文化の特徴を描き出すことを試みた。分析の結果として、メッターが描いたイスタンブールは、19世紀のオスマン帝国の衰退期においても、「繁栄と栄華」の都市イメージを維持しつづけた。また、それらの話に登場するイスタンブールの都市社会は、イスラム教の価値を中核としながらも、異なった文化的背景をもつ人々が生き活きと活動する、多様性に満ちた社会として描かれる傾向が認められた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1. 井藤聖子、山中速人「近世トルコの口承文芸にみる都市のイメージとエスニシティの多様性～メッター嚙とそこに表現されたイスタンブールとエスニック集団～」『総合政策研究』no.50, 2015年, 印刷中。(査読無)
2. 井藤聖子、山中速人「イスタンブール・ファーティー地区(トルコ)の街頭景観における宗教的表象とその多義的解釈～景観映像に対する読み取りインタビュー調査報告」『総合政策研究』no.45, 2013年11月, pp.39-83。(査読無)
3. 山中速人、井藤聖子「都市における宗教的表象と地域のアイデンティティ～イスタンブール(トルコ)における街頭映像の記録と分析」『総合政策研究』no.43, 2013年3月, pp.83-105。(査読無)

[その他]

Youtube 番組「ボスポラス海峡をわたって」
<https://www.youtube.com/watch?v=hAi01FLYNvk&feature=youtu.be>

6. 研究組織

(1)研究代表者

山中 速人 (YAMANAKA, Hayato)
関西学院総合政策学部・教授
研究者番号: 80191360

(4)研究協力者

大森 康弘 (OMORI, Yasuhiro)
立命館大学映像学部・教授
研究者番号: 00111089